

Rotary



Weekly Bulletin Vol.69 No.23 2024-2025 RI会長 ステファニー A. アーチック 泉大津ロータリークラブ(創立1956.5.4)

週報 第3274回

会長 渡辺 万寿 副会長 瀧谷 達
幹事 根尾 玲子 SAA 中田 広宣

例会場 ホテルレイクアルスターアルザ泉大津
TEL 0725-20-1121
例会日時 毎週金曜日 12:30 ~ 13:30



泉大津ロータリークラブ

Izumitsu Rotary Club

事務局 〒595-0062 泉大津市田中町10-7 泉大津商工会議所3F
TEL.0725-21-9500 FAX.0725-21-9501
メールアドレス info@izumiotsu-rc.org
ホームページ http://izumiotsu-rc.org



今週の例会(2025年1月17日) 第3274回

■ プログラム

クラブアセンブリー 各奉仕部門担当理事

■ 次週のプログラム

1月24日: 卓話担当 小門 茂樹 会員

■ 今後の予定

・1月31日: 新年特別卓話
泉大津市長 南出 賢一 様

■ 祝 誕生日

南出 和成(22日)

■ 今月のロータリーソング

それこそロータリー

今月の歌

たき火

垣根の垣根の 曲がり角
たき火だたき火だ 落ち葉たき
あたろうか あたろうよ
北風ぴいふう 吹いている

■ 先週の例会

幹事報告

根尾 玲子 幹事

- 本日皆様のテーブルには、ガバナー月信1月号、メールボックスには、ロータリーの友1月号を入れさせて頂いております。ご一読をお願いします。
- ご連絡が遅くなりましたが、8日から本日まで事務局がお休みとなっております。
また、16日(木)は事務局がお休みとなります。
- 本日後6時より、ホテルレイクアルスター泉大津7階「小津」にて理事役員会を行います。関係者の方はご出席をよろしくお願いいたします。

委員会報告

ロータリーの友1月号の読みどころの紹介
縦書きP25「卓話の泉」『マジックのテクニク』は
泉大津 RC の卓話です。ご一読をお願いします。
(小野寺 巧 会報・IT 委員長)

■ ビジター

なし

■ 出席報告 会員数43名 出席免除1名

月日	出席数	欠席	補充	出席率
1/10	36名	7名	—	83.72%
12/13	36名	8名	2名	86.36%

■ メークアップ

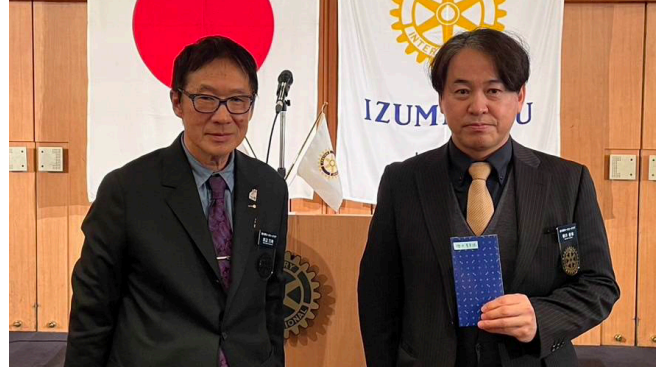
榎本(12/19 ワールド大阪ロータリーEクラブ)
松村(12/6 理事役員会)

■ ニコニコ箱

- ・明けましてお目出とうございます。本年も宜しく御願
い致します(渡辺)
- ・新年明けましておめでとうございます。今年もどうぞ
宜しくお願ひします(根尾)
- ・明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願
ひいたします(中田)
- ・新年明けましてお目出とうございます。本年も宜敷く
お願ひ致します(南出)
- ・誕生日祝いありがとうございます(櫻井)
- ・クリスマス家族例会欠席のお詫び(深井)

ニコニコ箱合計	18,000円
累計	463,000円

■ お誕生日



櫻井 善章 会員(16日)

先週のプログラム ▶ 新年会長挨拶



渡辺 万寿 会長

明けましておめでとうございます。
本年も宜しくお願ひ申し上げます。
本年の干支は、古代中国で生まれた暦法(れきほう)、十干十二支(じっかんじゅうにし)でいうところの乙巳(きのとみ)です。
「乙」は十干の2番目で、木の陰のエネルギーを表し、植物が成長し広がっていくような意味合いです。柔軟性や協調性を象徴し、周囲との調和を保ちながら自身の目標に向かって進んでいく力を表しています。

「巳」は十二支の6番目で、蛇を表します。蛇は古来より豊穡や金運をつかさどる神様として祀(まつ)られることもあり、運気を上げる縁起物と言われています。



2025年の乙巳(きのとみ)の年は、多くの人にとって成長と結実の時期となる可能性が高いです。「乙」は未だ発展途上の状態を表し、「巳」は植物が最大限まで成長した状態を意味します。この組み合わせは、これまでの努力や準備が実を結び始める時期を示唆しています。

次年度、創立70周年を迎える泉大津ロータリークラブにとって、相応しい一年となることでしょう。

先達が築き上げてくださった今日を、会員全員で祝っていただくではありませんか!

私の年度は、静かに力を養っていく年度であり、スムーズに次年度にバトンタッチしたいと考えております。

最後まで、皆様のご協力をお願いいたします。

本年も、皆様、宜しくお願ひ申し上げます。

男女差別をなくしていこう

「ジェンダー」

3月8日が何の日か知っていますか？

実は、3月8日は、国連が決めた「国際女性デー」。これは、女性への差別を無くしていくことを目的に決められました。国際的な記念日なので、この日は世界のあちこちで関連のイベントが盛り上がります！

解決しなければならぬ世の中の問題のひとつに、ジェンダーにもとづく偏見や不平等があるとされています。その、ジェンダーって何でしょう？

ジェンダー (gender) とは、生物学的な性別 (sex) に対して、社会的・文化的につくられる性別のことを指します。世の中の男性と女性の役割の違いによって生まれる性別のことです。たとえば、「料理は女がやるもの」って考えている人、いますよね？料理＝女のシゴト。でも男で料理上手もいるのに？この性別がジェンダーです。

世界には学校にも行けず、読み書きや計算ができない女性がたくさんいます。途上国では、便利な家電が充実しているわけでも、ガス・水道・電気などの環境が整っているわけでもないのに、女性の家事にかかる時間はとても長く、大きな負担になっています。途上国では、お母さんのからだや赤ちゃんが危険なくらい若いうちに妊娠したり、本人が妊娠したくないのに妊娠させられたり、女性に対する日常的な暴力だって存在します。

ジェンダーによる男女差別をなくして、ひとりひとりの実力がいかされて、安全で安心して暮らせる世の中をつくっていくことは、全世界の課題なのです！

「超我の奉仕」に国境はない

希望から平和へ

「超我の奉仕」というのは、私たちが自分の欲を満たすより、他者のニーズを優先する道を選ぶということです。そして、他者の問題を自分の問題として捉え、手助けしたいと望むことです。ロータリーは、安全な水の不足、栄養失調、衛生環境や保健施設の欠如といった、争いの原因となる問題に取り組むことで平和構築に努めています。このようなニーズが満たされると、さまざまな機会が生まれると同時に、希望が生まれます。希望に国境はなく、果てしなく広がり続けるでしょう。この希望が広がった土壌から、平和が芽生えるのだと思います。

「奉仕を通じて平和を」のテーマを通じて、私たちの中に宿る最高の資質を発揮しましょう。その資質が発揮された時、私たちはあらゆる壁を認識し、それらを取り除いていくことができるでしょう。

2012-13年度 国際ロータリー会長 田中 作次

ロータリークラブについて

日本でのロータリークラブ発足の歴史は、米山梅吉翁を除いては語れません。

しかしその米山にロータリークラブの存在を最初に教えたのは、三井物産の現地法人の支配人として、ダラスに赴任していた福島喜三次(きそじ)です。

彼は1915年にダラス・クラブのアディショナル正会員となった最初の日本人ロータリアンであり、RIに現存する記録には、彼より古い日本人ロータリアンの名前は見当たりません。

ロータリーの誕生とその成長

今から119年前、1905年当時のアメリカは経済恐慌で人心はささみ、犯罪は巷にみちているというありさまでした。これを憂えたシカゴの一青年弁護士 ポールP. ハリスは、よい社会をつくるためには、人の和を図り、世の中に奉仕する気持を多くの人が持つようになることが大切だと考え、ポール・ハリス自身それ以前数年間、想を練り、まず石炭商シルベスター・シール、鉱山技師ガスターバス・ローア、洋服商ハイラム・ショーレーの3人の友人と語り、2月23日、この理想をひろく人々に呼びかけるための第1回の会合を持つに至りました。はじめ数カ月は非公式にブースター・クラブ(ブースターとは向上させるの意)と呼んでいましたが、さらに印刷業界のハリー・ラッグルズをはじめ、他の友人が加わってロータリークラブの誕生となりました。ロータリーとは、集会を順番に、会員が各自の事務所を持ち回ってひらくことから名付けられました。

この理想は着々と実現され、1908年に2番目のクラブがサンフランシスコにつくられ、1910年には国内クラブ数16を数えるまでになり、さらに国境を越えてカナダ、英国へと国際的ひろがりをもって発展し、ここにロータリー国際連合会ができ、1922年には国際ロータリーと呼ばれることになったのです。

日本のロータリーの歩み

日本のロータリークラブは、1920年(大正9年)10月、その頃の三井銀行重役米山梅吉が国際ロータリーから委任されて、東京に設立したのが始まりで、世界で855番目のクラブでありました。

日本のロータリー

わが国最初のロータリークラブは、1920(大正9)年10月20日に創立された東京ロータリークラブで、翌1921年4月1日に、世界で855番目のクラブとして、国際ロータリーに加盟が承認されました。

日本でのロータリークラブ設立については、ポール・ハリスの片腕としてロータリーの組織をつくり、海外拡大に情熱的に取り組んだ初代事務総長チェスリー・ペリーと、創立の準備に奔走した米山梅吉、福島喜三次などの先達の功を忘れることができません。

その後、日本のロータリーは、第2次世界大戦の波に洗われて、1940年に国際ロータリーから脱退します。戦後1949年3月になって、再び復帰加盟しますが、この時、復帰に尽力してくれたの

が国際ロータリーの第3代事務総長ジョージ・ミンズでした。その後の日本におけるロータリーの拡大発展は目覚ましいものがあります。ロータリー財団への貢献も抜群で、今や国際ロータリーにおける日本の地位は不動のものになりました。

現在、日本全体でのクラブ数は2,335、会員数100,812人(2006年11月現在)となっています。

【2,215クラブ 84,789人 2024.10.15現在】

国際ロータリー公式地域雑誌「ロータリーの友」より

1920年10月

東京ロータリークラブ(RC)は、米山梅吉と福島喜三次の出会いに始まる。1918年1月、米山は、目賀田種太郎男爵を団長とする財政調査団に加わって渡米。テキサス州ダラスでダラスロータリークラブ会員の福島喜三次に会い、初めてロータリー運動に接し、大いに心を動かされる。帰国後、米山は2年余、ロータリー精神と組織の研究に努めた。当時の日本は、第一次大戦に連合側として参戦。一時的な景気に沸いたものの、戦後は恐慌に襲われ、不景気のなかで農民運動や初のメーデーが行われるなど揺れ動いていた。ロータリー精神が容易に受け入れられるような状況ではなかったが、米山の熱意は少しも衰えなかった。1920年1月には福島も帰国。在日米国人実業家ウォルター＝ジョンストン(W.L.Johnstone)の応援を得て、具体的な準備作業が進められた。設立準備会を開いたのは9月1日である。



若き日の米山梅吉



東京RCの生みの親の1人 福島喜三次

設立総会は10月20日、銀行クラブにジョンストンと賛同の有志14名(チャーターメンバー24名中)を集めて開かれた。総会では初代会長に米山を、幹事に福島、理事に伊東米次郎、樺山愛輔、小野英次郎を選出。国際ロータリー(当時はロータリー国際連合会と称していた)のシカゴ本部に加盟申込書を送り、翌年4月承認された。

はじめは会員の選考も厳格で、クラブの記録や通信にも英文が使われた。しかし例会への出席状況は、あまりはかばかしくなかったようである。東京RCは国際ロータリーにより特別代表に任命された福島喜三とWalter Johnstone並びに米山梅吉の尽力により、日本で最初に創立された、国際ロータリー直轄のクラブである。創立時の記録にスポンサークラブの存在は記されていないことを申し添える。

年度	会長	幹事
1920	米山 梅吉	福島 喜三次
1921	米山 梅吉	三神 敬長

【東京ロータリークラブHP・東京ロータリークラブの誕生より抜粋】

大阪ロータリークラブ創立 大正11年(1922年)11月17日

テキサス州のダラスロータリークラブ会員であった福島喜三次君が帰国後大阪に赴任し、星野行則君とともに大正10年(1921年)大阪にロータリークラブを作る必要性を語り合ったのが発端である。その後大正11年(1922年)春、星野君はロータリークラブの実況を視察することになり、先ずシカゴの本部を訪れた。当時のPerry幹事に面会した同君は、創立に関する全権を依頼され、同年11月1日第一回の創立準備会を中之島大阪ホテルにて開催した。その後チャーターメンバーを選び、クラブ細則原案を作り、大正11年(1922年)11月17日創立総会を開いた。

(1,923年2月国際ロータリーより加盟承認 1,349番)

年度	会長	幹事
1922.11	星野 行則	福島 喜三次 / 村山 尚志
1923. 5	星野 行則	福島 喜三次 / 露口 四郎
1924. 5	村田 省蔵	福島 喜三次 / 露口 四郎
1925. 5	長谷川銚五郎	福島 喜三次 / 露口 四郎
1926. 5	平生 鈞三郎	福島 喜三次 / 露口 四郎

ポール＝ハリスの来日 1935年2月

ロータリーの創始者ポールP・ハリスが最初に日本を訪れたのは90年ほど前の1935年2月だった。滞在期間こそ短かったものの、長く記憶に残る重要な印象を残した訪日であった。プレジデント・クーリッジ号でのホノルルから横浜までの8日間の船旅の間ずっと、天候は荒れ、太平洋の



来日したポール＝ハリス

波は高かった。しかし、元気なハリスは意気軒昂で船客仲間との会話や交際を楽しんだ。ハリスの船旅に同行したのは妻のジーン、当時のRI会長ロバートE・リー・ヒル、それに国際的に名を知られていた日本の弁護士宮岡恒次郎(1934-35 RI理事)であったが、この訪日をハリスは次のように回想している。「サンフランシスコから日本へ、そこからさらに中国、そして太平洋を囲む国々のロータリアンの会議(太平洋地域会議)が開かれたマニラへと旅を続ける間、常に宮岡がそばにいてくれたのは、めったに得られない類(たぐい)の喜びだった。船上での話題はもちろん、たいいていロータリーに関することだった」

当時、日本にロータリーが生まれてから15年たっており、22のロータリークラブがあつて、ロータリアンの数は約900人だった。今日の日本は世界第2位のロータリー国で、現在クラブ数は約1,870、会員数は約11万1,000人であるが、これは今後さらに着実に増えていくはずである。日本のロータリアンはロータリー財団と、ポリオプラスなどロータリー財団の事業を積極的に支援しており、また数百件にのぼる世界社会奉仕事業を毎年実施している。さらに環境改善や青年、高齢者、身体障害者向けの数多くの事業が行われている。

ハリスは自著『遍歴—第2部』のうちの1章を訪日の思い出にあてている(注:この本の原タイトルはPeregrinationsで、ロータリー文庫 Tel 03-433-6466に1冊だけ保存用があります)。この回想記によると、ポール・ハリスが横浜港に入港したプレジデント・クーリッジ号の甲板から初めて見た日本の光景は「壮麗な富士山だった」という。ロータリアンやその妻たち17人の一行が上陸したときの記者とカメラマンの熱心な仕事ぶりにハリスは感心した。東京に入った一行は都内の道をドライブした後、帝国ホテルに着いた。ハリスの回想によると、帝国ホテルで「会長と私は記念植樹をした。私にとってこれは非常に印象深い儀式だった」という。この木は、帝国ホテルの旧館がこわされた際に植えかえられて枯れてしまったが、この木の枝を使った数多くの挿し木はいまでも元気だ。日本のいたるところにポール・ハリスゆかりの月桂樹がある。

ポール・ハリスは、日本のロータリークラブの生みの親で、著名な財界人、東京RC創立会長 米山梅吉とメイプル・クラブで会い、純日本式の昼食をともにした。「メイプル・クラブでは、米山会員がじぎきに私の世話をやき、はしの使い方を教えてくれた。この微笑を絶や

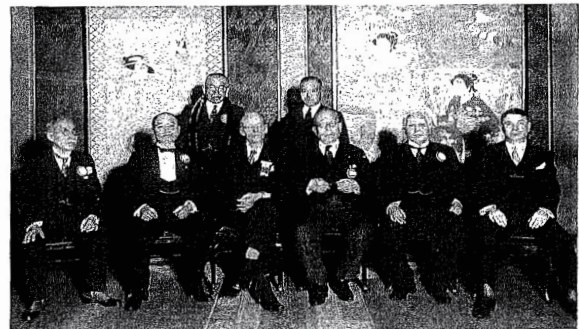


帝国ホテル中庭で、月桂樹を記念植樹するポール・ハリス

さない、端正な容貌の日本人紳士とのこれが初めての出会いとは思えなかった。米山の等身大の青銅の胸像が私のオフィスにあり、毎日それが目に入っていたからだ。しかしながら、米山の表情豊かな顔は、私が予想していたよりもはるかに若々しかったと言わねばならない。温厚な人柄のおかげで、たくさんの責任ある仕事を抱え込んでも、過度の心労に悩まされることのないのが、若々しさの原因らしい」と、ハリスは書き残している。

ポール・ハリス訪日回想録の終わりの部分にはこうある。「日本を去るに当たって私の頭にはこういう考えがあった—世界のすべての国民が、他の国民が積み上げてきた経験と知識とを、自分たちの生活を豊かにするために利用しようとする賢明で心の広い人間になれたなら、こんなに素晴らしいことはない」とそしてこう書き足している、「アメリカの公園にもつと桜の花を咲かせよう、アメリカでも桃の節句や端午の節句、あるいは人形の祭りを祝おうじゃないか、このわれわれの世界に優しさをふんだんにもたらすには、世界各国の国民が自ら抱えている偏見を捨て、優しさを求めさえすればいいのだ。日本は、国際関係で重要な役割を果たすと、私は確信している」

ポール・ハリスは、この日本滞在の中、米山梅吉氏よりハシの使い方を教わった



1935年2月9日 於東京会館(興会場)

小林 一 種一
一九四九年
東京RC会長
ポール・ハリス
徳川家康公
(名誉会員)
高橋 実
前内閣総理大臣
(名誉会長)
R.L.H.L.L
(クラブ・ビルとよい
ついで)
米山梅吉
一九二〇年
東京RC会長
高橋 次郎
一九二二年
東京RC会長(前列)

ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基盤として奉仕の理想を奨励し、これを育むことにある。

具体的には、次の各項を奨励することにある。

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること。
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること。
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること。
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

四つのテスト

= 言動はこれに照らしてから =

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか